

PREMIUM WATER HOLDINGS

2027年3月期第1四半期 決算説明補足資料

株式会社プレミアムウォーターホールディングス
東証スタンダード：2588

2026年8月12日（水）



PREMIUM WATER
HOLDINGS

目次

- | 当社が目指すもの・競争優位性・今後の展開
- | 2027年3月期 第1四半期 業績
- | Appendix
 - (1) 会社概要・事業内容
 - (2) SDGsへの取り組み



PREMIUM WATER
HOLDINGS

当社が目指すもの
競争優位性
今後の展開



ウォーターサーバー需要の高まり

水道管の
老朽化

地震等
自然災害

PFAS
PFOS
問題

SDGs
意識の
高まり

社会的背景
(外的要因)



水資源を未来へつなぎ、
日本の天然水の価値を高める

PWHD（プレミアムウォーターホールディングス）は

宅配水
業界シェア**No.1**(※1)

PWHD誕生以来
ユーザー数**連続更新**



PREMIUM WATER
HOLDINGS

宅配水業界
最多の**8**水源

安心・安全に注力した
浄水型の展開

圧倒的な営業力

安心・安全な天然水を
安価で提供するための
基盤作り

工場の最新化

製造原価を抑えながら
プラスチック量の少ない
容器で
おいしい水を全国へ

配送効率の最適化

配送効率の最適化を図る
ための自社物流(※2)網を
維持することにより
物流コストの抑制を実現

※1 日本宅配水&サーバー協会（JDSA）2025年度宅配水業界統計より算出

※2 当社の配送管理システムに参加している配送パートナー



天然水という差別化が難しい商品で、**市場シェアNo.1**。競争優位を構築・維持する3つのポイント。

1 業界No.1の顧客獲得力

圧倒的な営業力がある直販のノウハウを代販へ伝えることで、**さらに強固な販売網**を構築。



2 業界No.1の8水源（うち自社工場3ヶ所）

月間 **約500万本**（約250万顧客相当）の生産能力を誇り、岐阜北方工場の竣工により、生産能力・生産効率が向上。



3 自社物流網の構築で効率的な配送

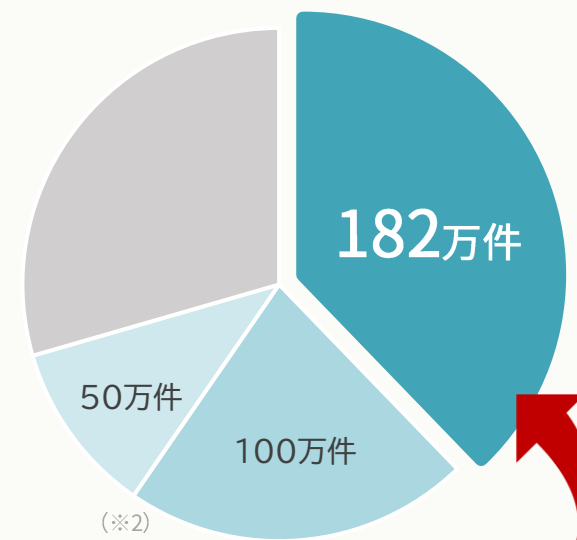
大手物流会社に左右されない自社物流網を構築したことにより、自社物流比率が**51.9%**まで上昇。**大幅なコスト削減**を実現。



ウォーターサーバー市場

顧客数 **No.1**

業界シェア **32.0%**^(※1)

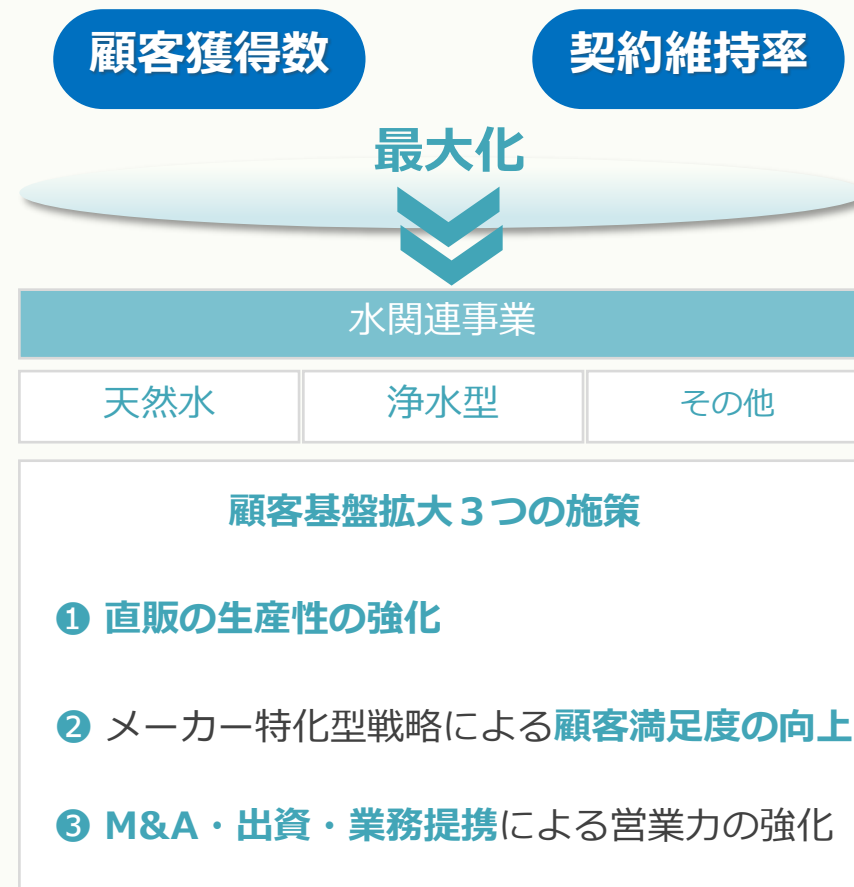
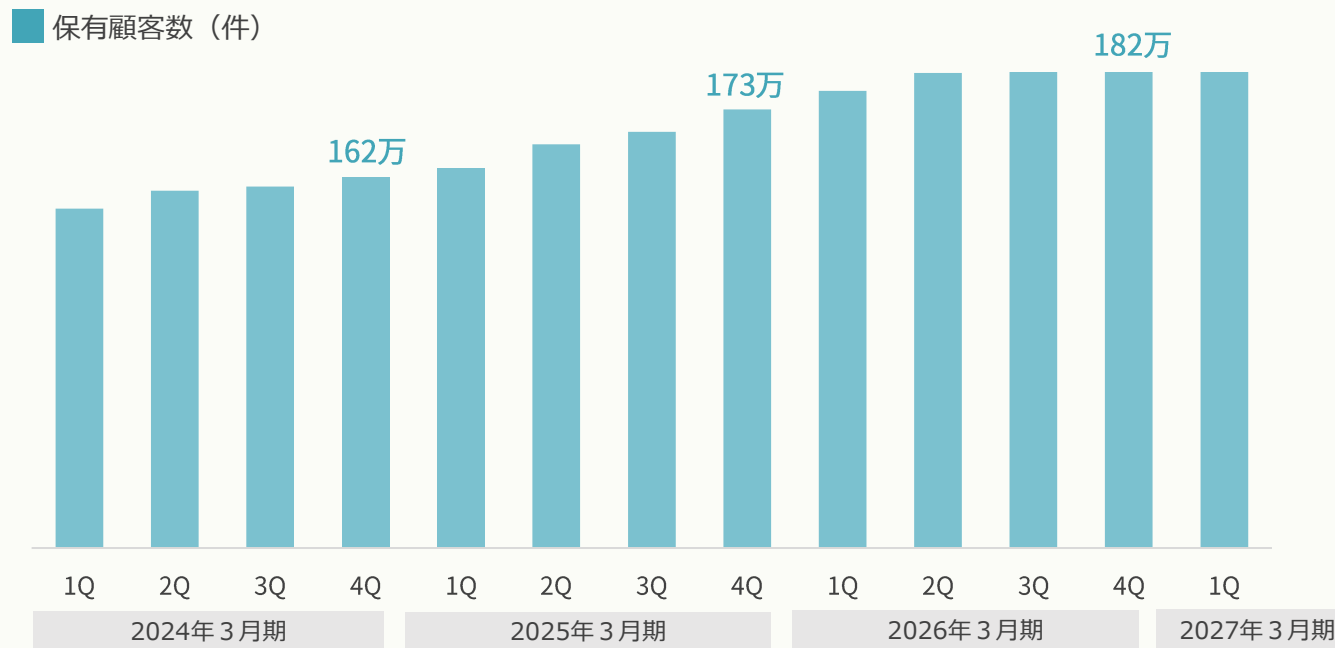


■ プレミアムウォーターホールディングス
■ A社
■ B社
■ その他

※1 JDSA2025年度宅配水業界統計より算出

※2 日本流通産業新聞2026年1月8日号より当社作成

業界シェアNo.1の顧客基盤の拡大に注力。





効率的な製造・配送体制を構築しつつ、営業力強化への投資にも注力していく方針。

持株会社



PREMIUM WATER HOLDINGS

企画・管理
子会社

製造子会社

営業子会社

提携・出資等

持分法適用会社

宅配水販売



議決権(※)
34.7%



議決権(※)
37.9%

ビール販売



議決権(※)
15.1%

取次店

※2026年6月末時点



PREMIUM WATER
HOLDINGS

2027年3月期 第1四半期 業績



保有顧客数の積み上げにより増収、EBITDAは前年同期を上回りキャッシュ創出力は堅調。営業利益は顧客獲得投資と本社移転等の一時費用により微減となったものの、通期計画に対し想定どおりの進捗。

●第1四半期累計期間（4～6月）

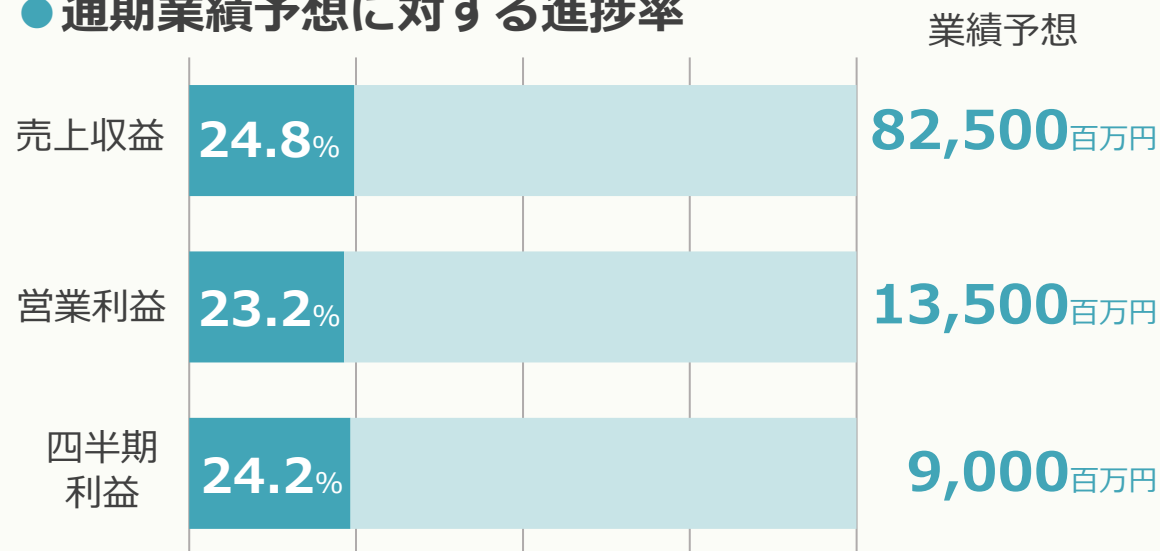
売上収益 20,432 百万円 前年同期比 104.3%

営業利益 3,133 百万円 前年同期比 95.4%

親会社の所有者に
帰属する四半期利益 2,174 百万円 前年同期比 115.3%

EBITDA 6,608 百万円 前年同期比 103.5%

●通期業績予想に対する進捗率



●「プレミアムウォーター」価格改定及び増量の実施

2026年9月出荷分より、価格改定を実施予定。

資材等のコスト高騰に対し、適正な価格改定。

同時にボトル容量を増量（12L→12.5L）し、

顧客満足度及び契約継続率（LTV最大化）と収益性向上の両立を図る。

SDGs

自動運転トラック^(※)による 長距離幹線輸送実証を開始

2026年6月より、深刻化するドライバー不足や物流コスト上昇への対策として、自動運転技術の開発を手掛ける株式会社T2と共同で、関東・関西間の高速道路におけるレベル2自動運転トラック^(※)を用いた幹線輸送の実証を開始いたしました。本取組みを通じ、中長期的な物流コストの抑制と、持続可能な配送体制の安定確保を目指してまいります。

※ドライバー同乗型の高度運転支援



株式会社T2公式YouTubeチャンネルにて公開された、レベル2自動運転トラック実証開始の紹介動画：<https://www.youtube.com/watch?v=H3Hr0muNwMc>

業務提携

JALと共同で新サービス JALウォーターの提供を開始

2026年7月より、JALマイレージバンク会員様向けに、ご利用内容に応じてJALのマイルやポイントが貯まる専用プランの提供を開始いたしました。高いロイヤリティを持つJAL会員層へのアプローチを通じた新規顧客獲得チャネルの多様化、マイル連携による顧客基盤の更なる定着化を図ってまいります。

非加熱だから、おいしい

PREMIUM WATER

HighQuality Water Delivery Service



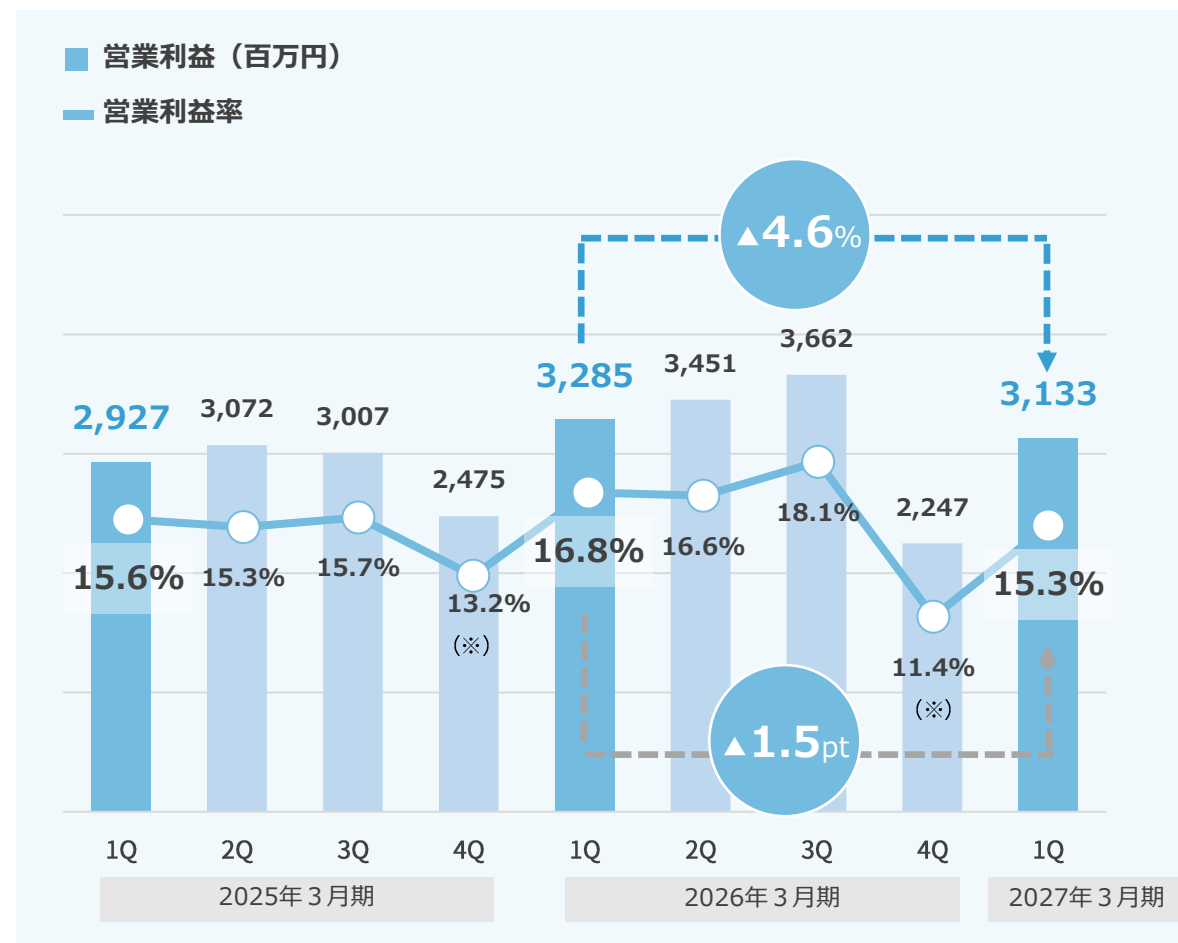
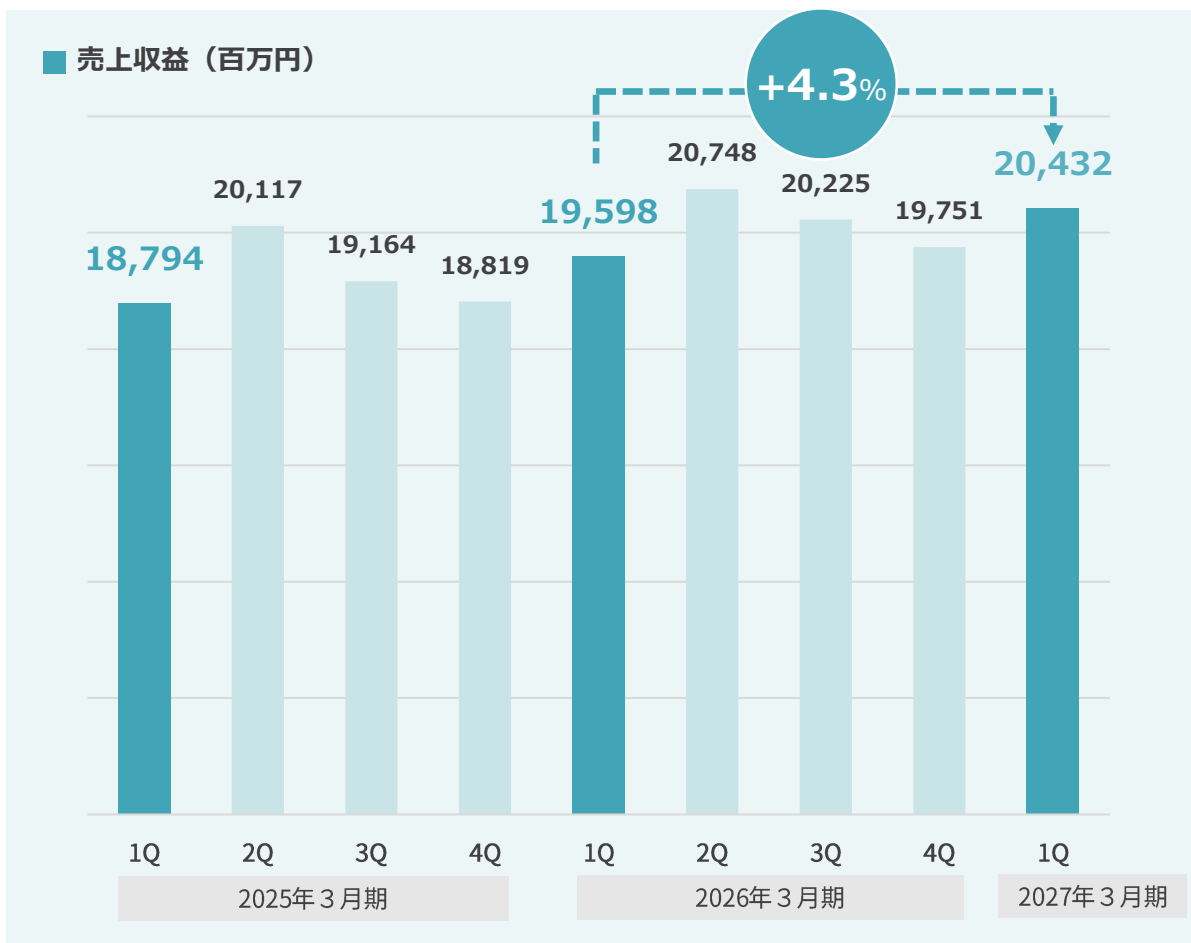
JAPAN AIRLINES





保有顧客数の順調な増加により、売上収益は前年同期比4.3%増加。営業利益率は前年同期比1.5pt減少。

需要獲得及び消費促進に向けた営業活動の積極化により営業利益率は僅かに低下も、計画どおりに事業を展開。



※毎期4Qは取次店等に対する手数料の支払いにより、1～3Qと比べると営業利益・営業利益率ともに減少

新規顧客獲得に加え、既存顧客の継続率を向上させることにより保有顧客数を積み上げる。

また、保有顧客数の増加に伴い、既存顧客に対する継続率向上のための施策が、今後さらに重要となる。

天然水(宅配水)



浄水型



主力の天然水ウォーターサーバーに加えて、
浄水型も成長ドライバーに

新規獲得

<新規獲得増加>

- ・直販の強化
- ・提携販路との資本関係強化
- ・M&Aの実施

継続率

<継続率向上>

- ・契約の長期化
- ・新製品の開発強化
- ・顧客満足度の向上

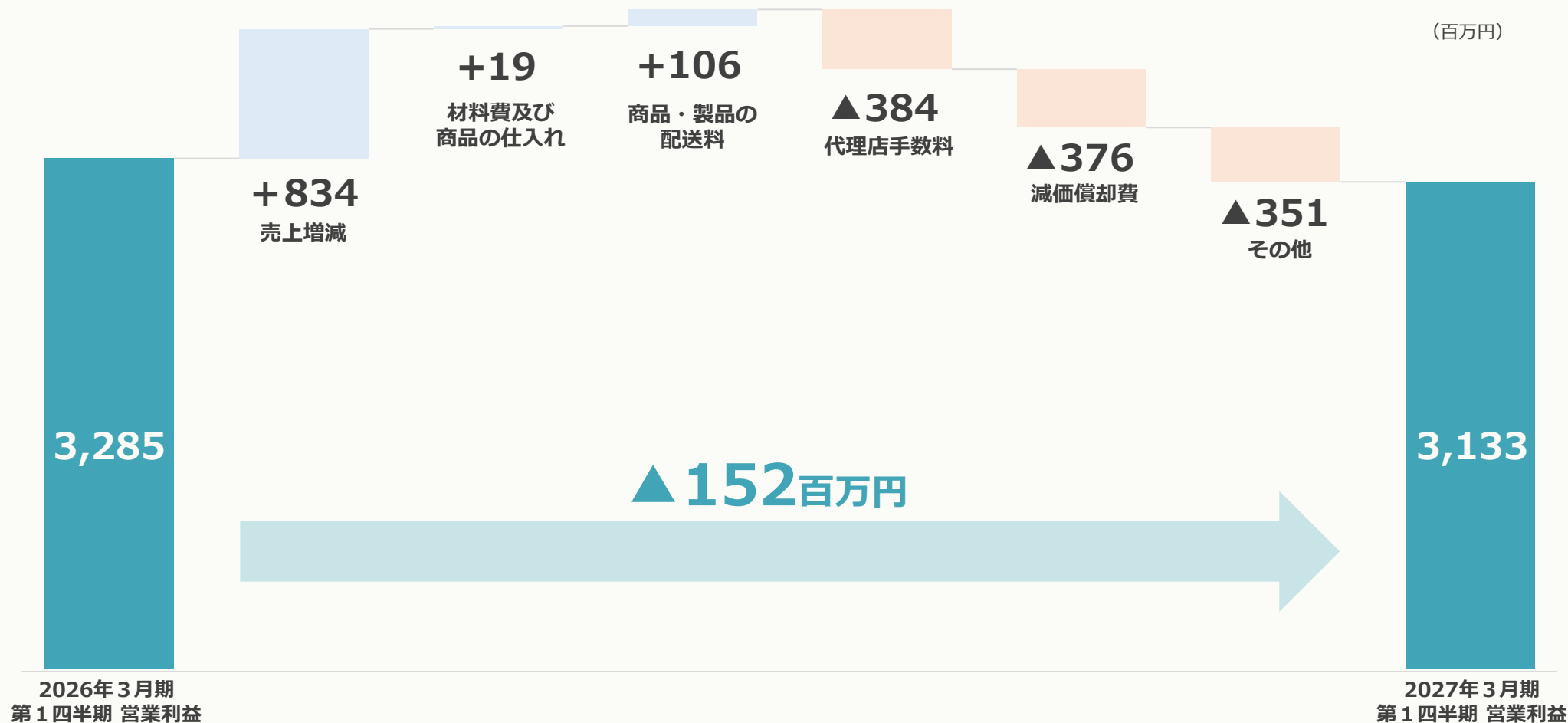
保有顧客数
増加



売上増加

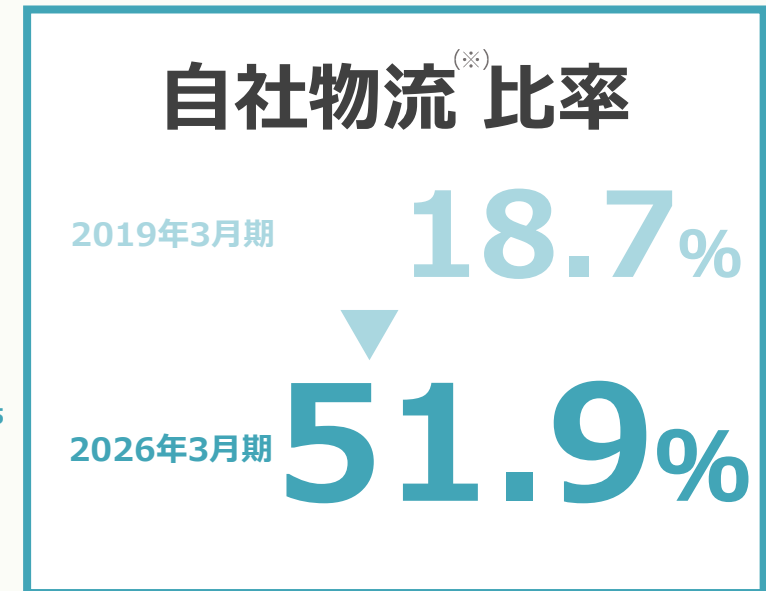
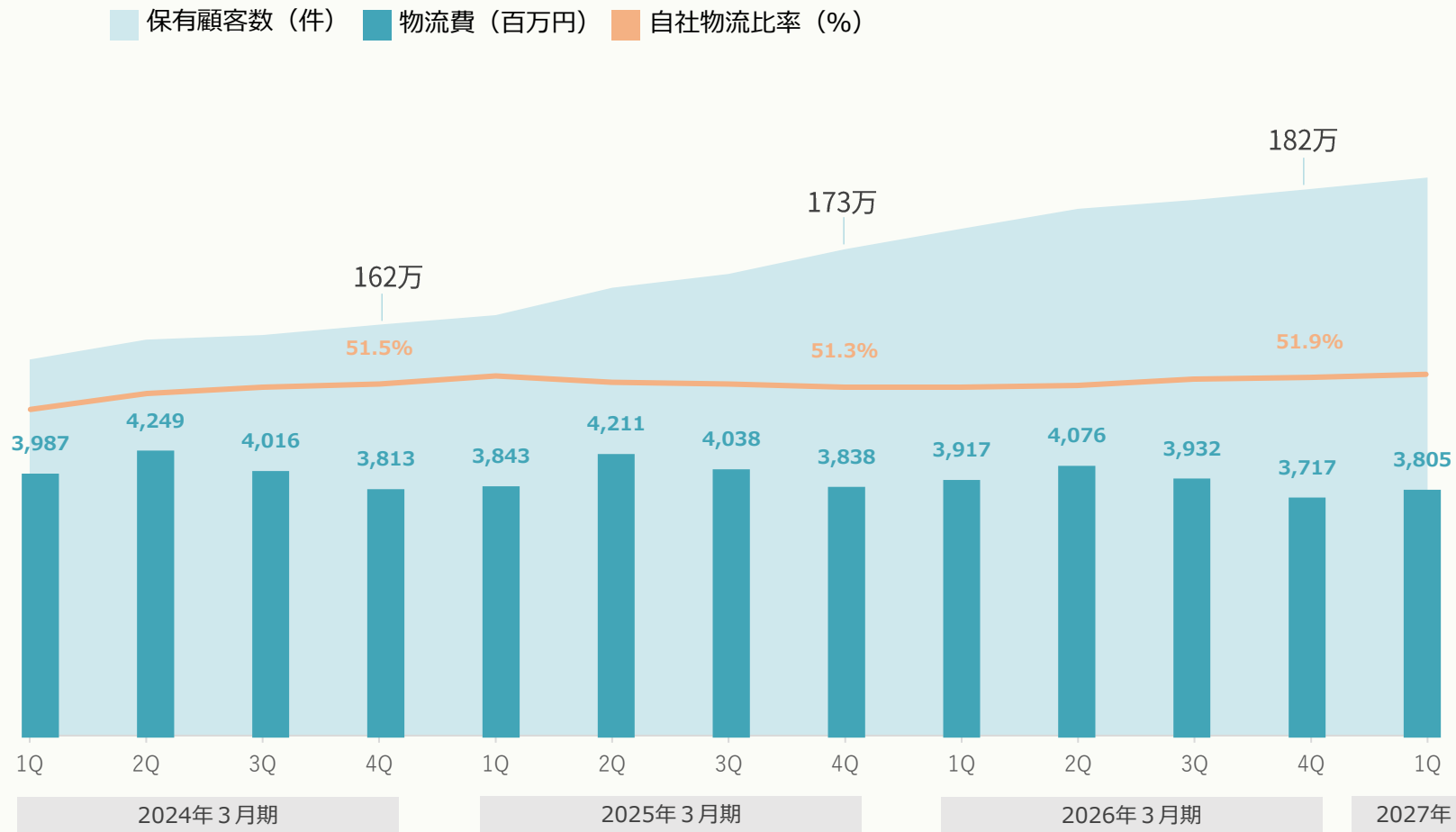


保有顧客数の増加に伴う売上の伸長や岐阜北方工場の稼働率向上によるコスト低減はしているものの、資材高騰の影響及びシェア拡大に向けた積極的な営業投資により、営業利益は前年同期比で微減。





顧客基盤の拡大による物流量の増加や物価上昇の影響を受けているが、
自社物流^(※)比率を適正に維持することで、物流コスト全体の増加を抑制。



※当社の配送管理システムに参加している配送パートナー



(百万円)

	2026年3月期 第1四半期 累計期間	2027年3月期 第1四半期 累計期間	増減	前年同期比
営業利益	3,285	3,133	▲152	95.4%
金融収益+金融費用	▲92	▲54	37	—
持分法による投資損益	▲177	57	235	—
税引前四半期利益	3,016	3,137	121	104.0%
法人所得税費用	▲1,130	▲962	168	—
非支配持分	0	0	▲0	—
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,885	2,174	289	115.3%

※営業外損益の科目については、損益にプラスの場合はプラス表記、マイナスの場合はマイナス表記をしております。



ウォーターサーバー等の投資に係る資金調達に伴い、リース債務等の有利子負債が増加。

	2026年3月期	2027年3月期 第1四半期	増減
流動資産	55,161	51,133	▲4,028
現金及び現金同等物	40,484	36,637	▲3,847
営業債権及びその他の債権	12,384	12,294	▲90
棚卸資産	577	581	3
その他	1,715	1,621	▲93
非流動資産	80,103	80,028	▲75
有形固定資産	35,343	34,412	▲930
無形資産	3,598	3,699	100
持分法で会計処理されている投資	5,323	5,322	▲0
その他の金融資産	19,973	20,311	338
契約コスト	14,735	14,909	173
その他	1,128	1,372	243
総資産	135,265	131,162	▲4,103

	2026年3月期	2027年3月期 第1四半期	増減
負債	103,188	99,479	▲3,708
流動負債	49,907	43,927	▲5,979
営業債務及びその他の債務	17,410	17,537	127
有利子負債	25,410	24,365	▲1,044
未払法人所得税	2,420	1,023	▲1,396
その他	4,666	1,000	▲3,666
非流動負債	53,281	55,552	2,271
有利子負債	52,376	54,844	2,468
その他	904	707	▲196
資本	32,076	31,682	▲394
株主資本	32,061	31,666	▲394
その他	15	15	0
負債及び資本合計	135,265	131,162	▲4,103



(百万円)

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期
現金及び現金同等物の期首残高	31,900	40,484
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,853	3,679
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4,209	▲2,293
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲244	▲5,292
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲60	59
現金及び現金同等物の四半期末残高	31,238	36,637

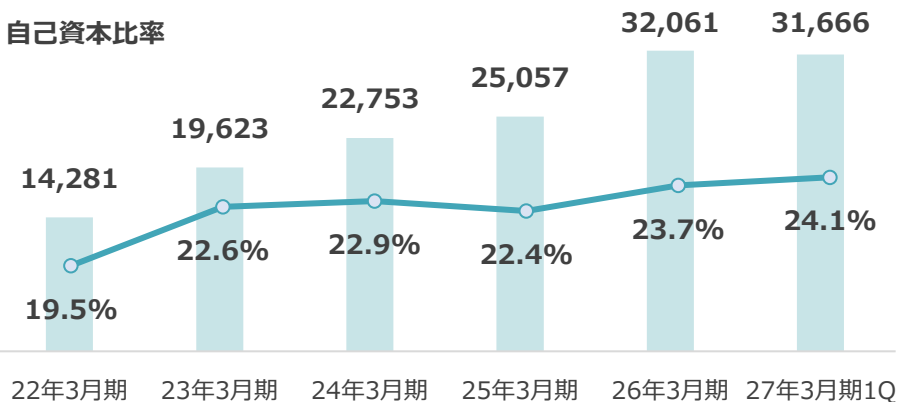


自己資本比率は引き続き、20%を超えて推移。

● 自己資本・自己資本比率

■ 自己資本（百万円）

— 自己資本比率

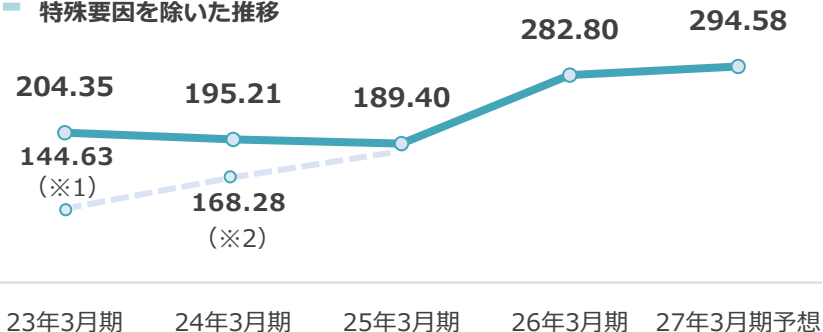


● 基本的1株当たり当期利益（EPS）

— 実績推移

- - - 特殊要因を除いた推移

（円）

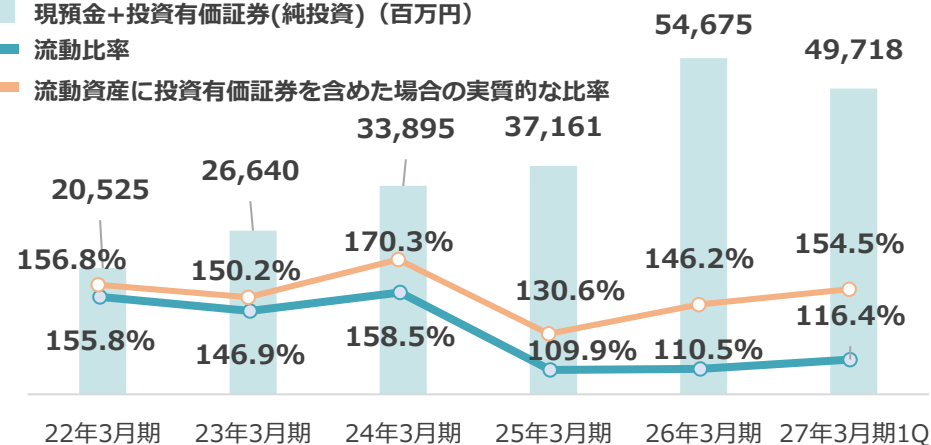


● 流動比率・現預金+投資有価証券（純投資）

■ 現預金+投資有価証券（純投資）（百万円）

— 流動比率

— 流動資産に投資有価証券を含めた場合の実質的な比率



ROE **28.2%** (2027年3月末予想)

ROA **6.9%** (2027年3月末予想)

※1 2023年3月期において、当期利益は6,057百万円だったが、特殊要因として繰延税金資産の計上分1,753百万円を含んでいるため、その特殊要因を除いた当期利益は4,304百万円。

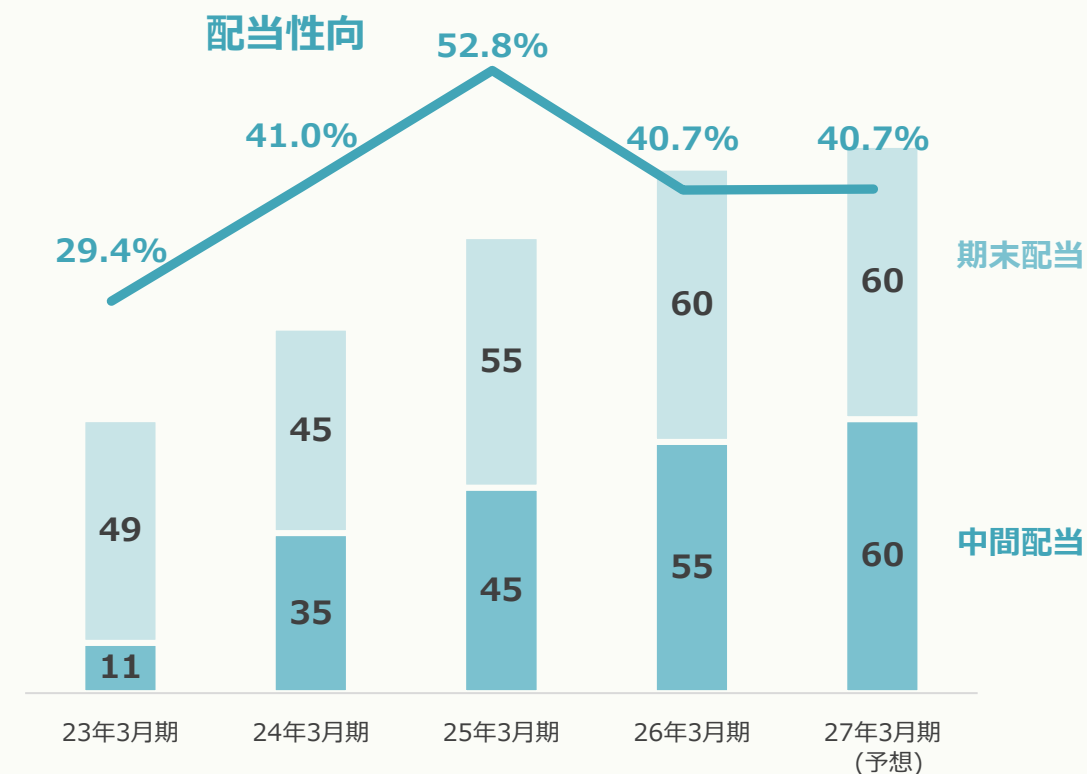
※2 2024年3月期において、当期利益は5,777百万円だったが、特殊要因として子会社譲渡の売却益797百万円を含んでいるため、その特殊要因を除いた当期利益は4,980百万円。

※3 EPSの計算に用いた2026年3月期期末発行済株式数には、B種種類株式9,046,070株を含む。

今後も内部留保や設備投資への成長投資とのバランスを考慮しながら**安定的な増配**を継続する方針。

(円)

	2025年3月期	2026年3月期	2027年3月期
中間配当 (基準日：9月末日)	45.00	55.00	60.00 (予想)
期末配当 (基準日：3月末日)	55.00	60.00	60.00 (予想)
合計	100.00	115.00	120.00 (予想)





2026年3月期は、当社株式を100株以上保有の株主様へ5,000円相当のカatalogギフトを贈呈。

また、当社の天然水をご契約の株主様には、さらに天然水1セットを無料でお届け。

優待品①

5,000円相当のカatalogギフト



カatalogギフトの品数を20品に拡充！

優待品②

天然水1セット（2本）

宅配水サービスご契約者様限定

ナチュラルミネラルウォーター
1セット(2本)プレゼント





PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(1) 会社概要・事業内容



会社名	株式会社プレミアムウォーターホールディングス
設立	2006年10月13日
所在地	＜東京本社＞ 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル7階 ＜本店＞ 山梨県富士吉田市上吉田4597-1
代表者	代表取締役社長 金本 彰彦
従業員数	914名（連結）（役員、臨時従業員含まない） ※2026年3月31日現在
資本金	5,369百万円（連結） ※2026年6月30日現在
事業内容	自社ブランド「PREMIUM WATER」を中心とするミネラルウォーターの ウォーターサーバー事業を行う子会社等の経営管理及びそれに付帯又は関連する業務
主要なグループ会社	プレミアムウォーター株式会社 プレミアムウォータープロダクツ株式会社 株式会社Premium-Plus 株式会社PWリソース 株式会社ライフセレクト 株式会社プレミアムビジネスサポート SINGAPORE FLC PTE.LTD



VISION

自社の活動を通じて人々の生活を豊かに
そして**世界で一番愛される会社へ**

MISSION

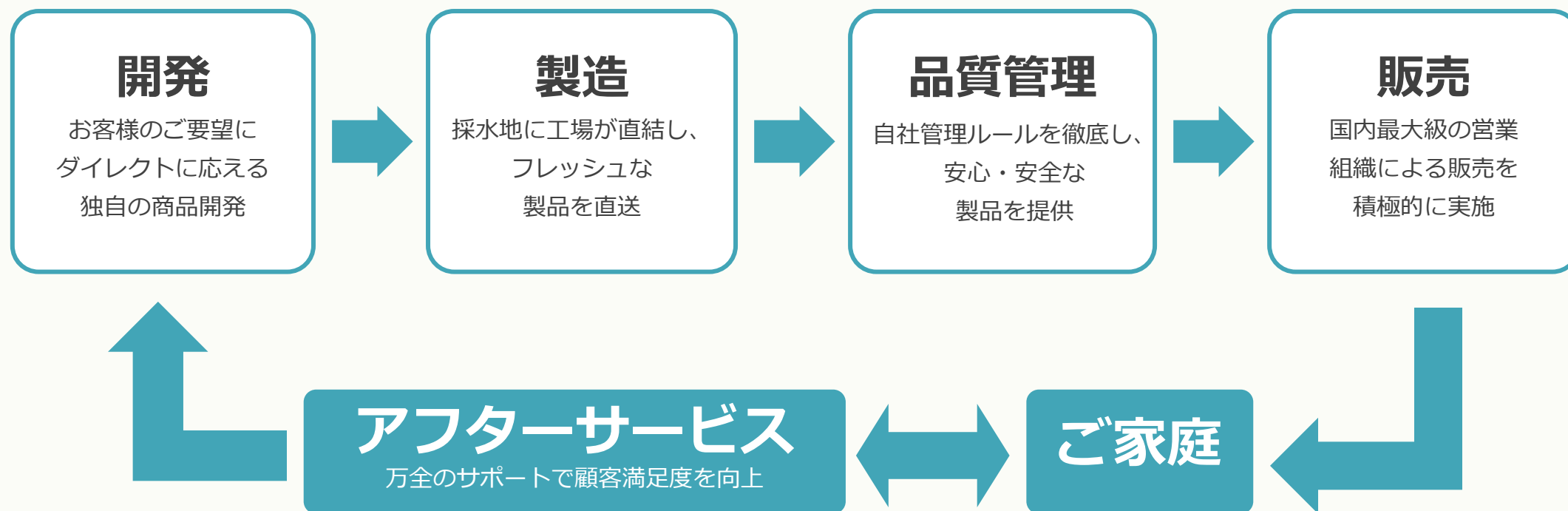
日本の天然水と言う唯一無二の価値を日本人に
そして世界に伝える事で社会的意義を果たし、地方創生を実現する

年号	株式会社ウォーターダイレクト	株式会社エフエルシー
2004年		2月 (株)エフエルシー創業 セールスプロモーション事業スタート
2006年	10月 (株)ウォーターダイレクト設立	
2007年	4月 第一工場稼働開始	
2008年		1月 ウォーターサーバー代理店事業開始
2010年	7月 富士吉田工場 竣工	4月 プレミアムウォーター(株)設立
2011年		3月 新設分割により(株)エフエルシー設立
2013年	3月 東京証券取引所マザーズ 上場	
2014年	4月 東京証券取引所 市場第二部へ市場変更	
2015年	2月 (株)光通信の子会社、(株)総合生活サービスによる TOBにより子会社化	

2016年	7月	株式会社プレミアムウォーターホールディングス設立
2020年	3月	宅配水事業における保有契約件数が100万件を突破
2022年	4月	東京証券取引所スタンダード 上場
2024年	4月	岐阜北方工場 竣工

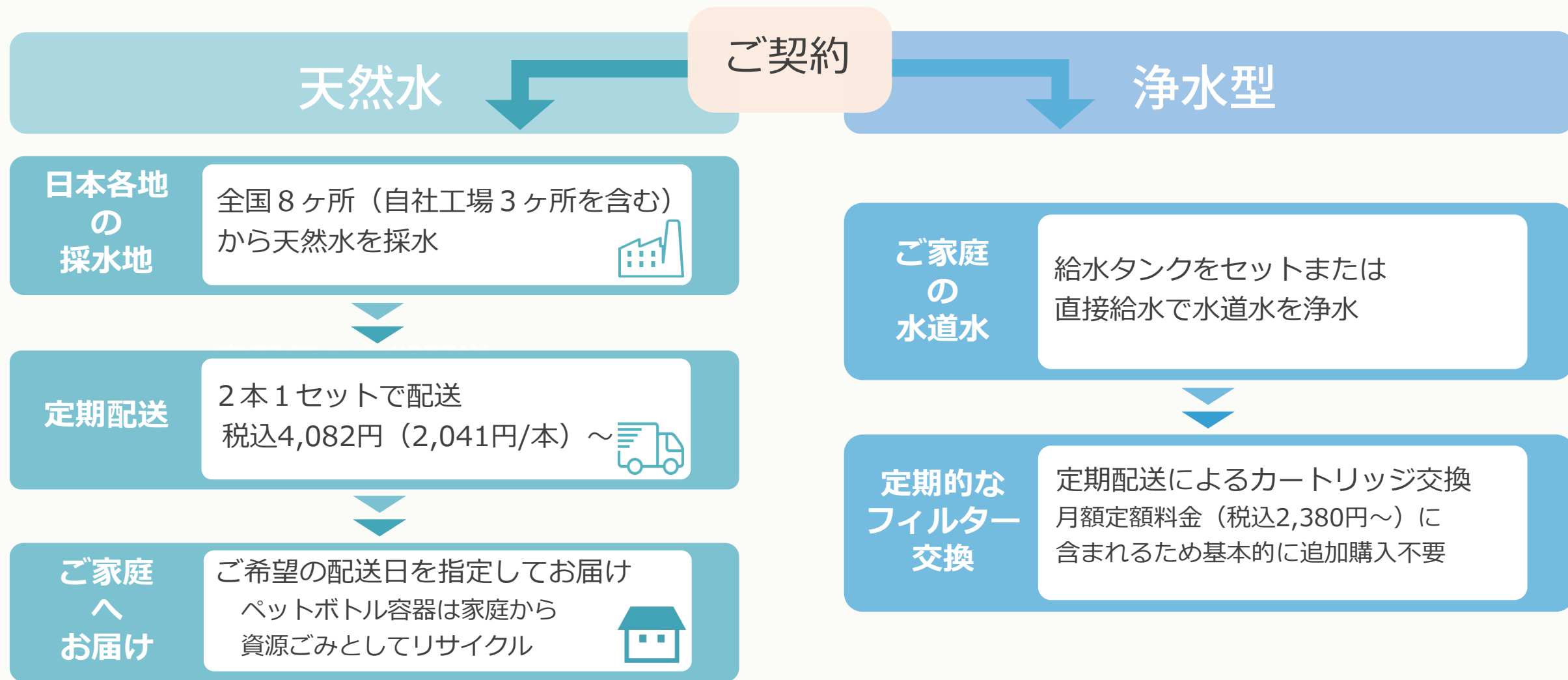


開発からアフターサービスまで一貫して手掛けることができる事業形態を活かし、
ダイレクトにお客様のニーズをとらえることで、より魅力的な商品・サービスをご提供可能。





自社ブランド「PREMIUM WATER」を主軸とした、天然水及び浄水型ウォーターサーバー事業を展開。





顧客の増加により確実に収益増加が見込める、安定性の高いビジネスモデル。

事業内容



天然水（宅配水）ウォーターサーバー

天然水の定期配送による安定した収益



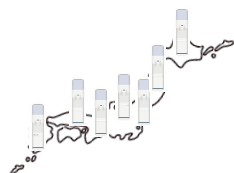
浄水型ウォーターサーバー

月額定額制(※)による安定した収益

※サーバーレンタル料+浄水カードリッジ料+配送料

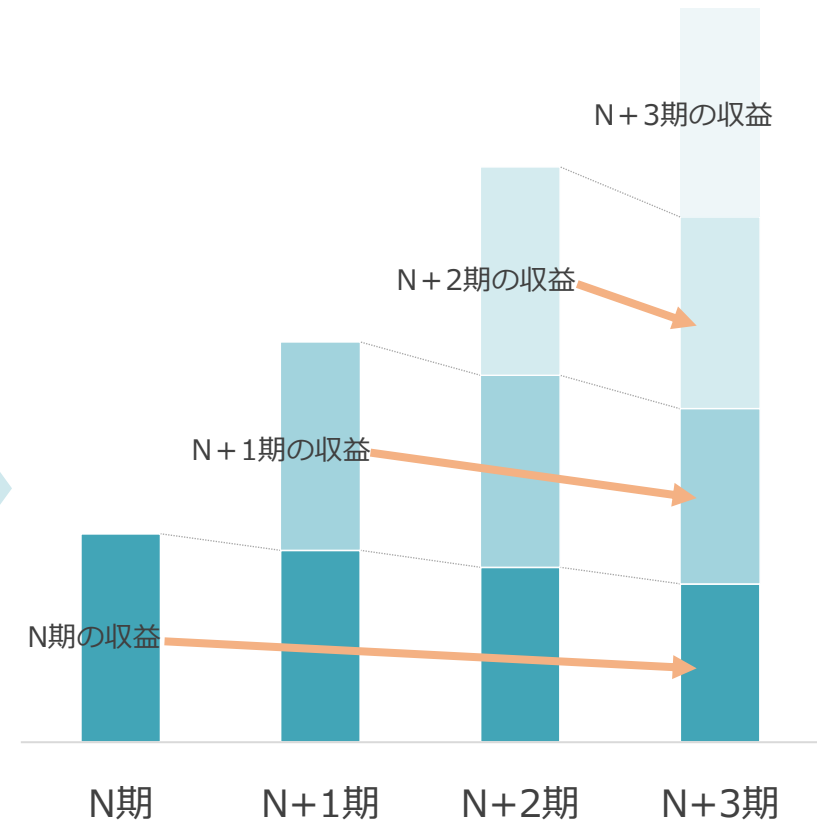


契約件数の増加



顧客1件あたりの
獲得コストが
一定水準であれば
収益が積み上がる

ストック型ビジネスモデル





PREMIUM WATER
HOLDINGS

Appendix

(2) SDGsへの取組み

こども食堂へのお米寄付



貧困や孤食という問題を抱える子どもたちの食が少しでも豊かになることを目的に、貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供する「子ども食堂」に自社富士吉田で収穫したお米を寄贈しました。

ウォーターエイドジャパンへの継続的な寄付



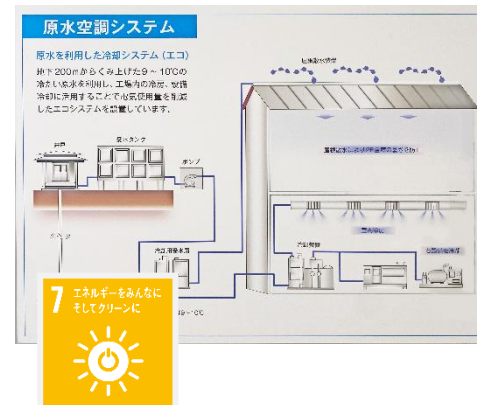
“SDGs特化型”の新たなウォーターサーバーブランド「PREMIUM WATER FUTURE」を立ちあげました。「PREMIUM WATER FUTURE」の売上の一部を愛すべき未来への想いを具現化する活動団体“ウォーターエイドジャパン”へ寄付することで、多くの人々が衛生的なお水を利用できるように支援しています。

災害時の支援・復興サポート



山梨県富士吉田市、兵庫県朝来市と「災害時における飲料水の供給に関する協定」を締結しており、災害発生時に被災者に飲料水の提供が必要となった場合、無償供給およびサーバーの無償貸与を行います。他にも、西日本豪雨による被災地支援品の寄贈、熊本地震における義援金寄付、熊本復興支援イベントの開催等を行い、「令和6年 能登半島地震」においても、被災地支援を行っています。

地下水の利用



富士吉田工場では、地下水200mからくみ上げた9度～10度の冷たい原水を利用し、工場内の冷房・設備冷却に活用することで電気使用料を削減したエコシステムを設置しています。

安心安全のナチュラルミネラルウォーター



同社グループの製品（ナチュラルミネラルウォーター）は、一般の公的基準よりも厳しい自社基準を設け、1日に10数回に及ぶ自主的な検査（水の微生物検査、理化学検査、官能検査）と定期的な放射性物質の検査を実施しています。また、赤ちゃんのからだにもやさしい「軟水」を提供しています。

PETボトルの軽量化



PETボトルの構造を変更し、2023年時点で20%軽量化（プラスチック使用量削減）を達成し、さらに2024年には3%の軽量化に成功しました。従来より23%軽量化した新たなペットボトルに順次入れ替え、2025年3月末までに全水源の約80%切り替えを完了しています。

公平な人事制度・ジェンダー平等への取り組み



人事考課での公平性を確保するために、人事ポリシー・考課制度を再整備しています。また、産前産後休業や育児休業・育児休業給付、育休中の社会保険料免除のほか、制度の周知や情報提供を行っています。

森林整備活動（西桂地区）



地域の水資源育成に向け、水源涵養機能の高い森が、良い水資源を生み、豊かな食生活を生むという考えから、西桂工場のある山梨県の西桂地区において健全な森を作る間伐等の整備を行っています。



サステナビリティレポートを公開中

当社グループのサステナビリティに関する取り組みや活動を、より多くのステークホルダーの皆様に
ご理解いただくことを目的に、当社ウェブサイトにて「サステナビリティレポート2025」を公開中です。

ESG（環境・社会・ガバナンス）の項目別に構成し、これまで実施した取り組みと持続可能な社会に貢献するための具体的なアクションを中心にご紹介しております。本レポートでは「CO2排出量のScope3算定結果」や「お客様への防災啓蒙活動」、「ダイバーシティ推進に向けた取り組み」等、最新の情報を追加しております。是非、ご覧ください。

「サステナビリティレポート2025」

<https://premiumwater-hd.co.jp/sdgs/assets/data/report/report2025.pdf>

当社ウェブサイトのサステナビリティページ

<https://premiumwater-hd.co.jp/sdgs/>

持続可能な未来を目指して 4つのテーマを重点的に展開

自然の恵みである天然水を守るため、そして持続可能な未来のために、
私たちは事業を通し4つのテーマでサステナブルな取り組みを
推進しています。

① 環境を守り育むことで自然を豊かに

- 目標
- 水資源の保全
 - プラスチック資源循環型モデルの実現
 - CO₂削減によるカーボンニュートラルへの貢献



② 地域と共生し人々の暮らしを豊かに

- 目標
- 地域コミュニティの発展
 - 地域環境の保全
 - 地域経済圏の構築



③ 公正で透明かつ 潤いのある組織を

- 目標
- 企業統治の実効性・透明性の向上に向けた法令等の遵守
 - 適時適切な情報開示等を通じたコーポレート・ガバナンスの強化



④ 多様性を尊重し働きがいのある 環境で社員の人生を豊かに

- 目標
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進による多様な人材の活躍の場を創造
 - 社員の働きがいの向上
 - 心身ともにいきいきと働ける職場環境の実現





1. 掲載された情報についてご注意いただきたい点

当資料を通じ、財務情報、経営指標等の情報の開示を行います。当社は、当資料を通じて情報開示を行うにあたり細心の注意を払っておりますが、当資料に掲載した情報について内容の正確性等を保証いたしません。当資料による情報開示は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は、ご自身の判断でお願い致します。当社は、当資料に掲載された情報を利用したことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

2. 将来の見通しに関する事項について

当資料に掲載されている情報には、業績予測等の将来の見通しに関する記述が含まれていますが、これらはリスクや不確実性を内包するものです。業績予測等の将来の見通しに関する記述は、その実現性を保証するものではなく、当社を取り巻く経営環境や市場動向の変化等により、実現しない可能性があることにご注意ください。

3. 当資料の運用について

当資料は予告なく配布の中止や内容の変更を行うことがあります。当社は、当資料を利用できなかったことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。

＜お問い合わせ先＞

株式会社プレミアムウォーターホールディングス IR担当

お問い合わせ先：<https://premiumwater-hd.co.jp/contact/>



PREMIUM WATER
HOLDINGS